



深田久弥

山の文化館だより

令和6年
夏号

深田久弥 山の文化館
〒922-0067
石川県加賀市大聖寺森場町十八
TEL 〇七六-721-3313
FAX 〇七六-721-1181

富士写ヶ岳 あれこれ

大聖寺から富士写ヶ岳

加賀市中央図書館から電話がかかってきた。「来館者に、図書館の玄関先から見える山はどどこですか、富士写ヶ岳ですかと質問されたのですが」という内容だった。早速カシミールで作図し、富士写ヶ岳であることを確認した。図書館にその旨を伝えるとともに、カシミールやそのほかの山岳展望アプリについてもお知らせした。山の文化館閉館後、図書館の玄関に行ってみた。富士写ヶ岳は雲がかかり見えなかったが、右手に荏安山が見えた。また出直そう。

後日、図書館の玄関ポーチの前で写真を撮ることが出来た。残念ながら大きな鉄塔が前に立ち塞がっていたのだが。この鉄塔は、新幹線高架の電波障害を割ける為に高くしたものだそうである。景色としては残念なものである。



加賀市中央図書館前より富士写ヶ岳

建物が低かった昔は、大聖寺の町のそこかしこで富士写ヶ岳を見ることが出来たであろう。

今でも見えるところはと考え、深田久弥の母校錦城小学校の校庭に行ってみた。

運動場からきれいな双耳峰の富士写ヶ岳を見ることが出来た。聖寺近辺だけである。久弥も毎日のように見ていたのであろう。

久弥祭

四月二十八日、富士写ヶ岳のふもとの九谷ダム広場で、恒例の「久弥祭」が開催された。今年も晴天に恵まれ、例年通り、献酒、献花、献句、朗読と滞りなく行われた。公益社団法人日本山岳会が日本全国13カ所の山岳



錦城小学校校庭より富士写ヶ岳

双耳峰に見えるのは大聖寺近辺だけである。久弥も毎日のように見ていたのであろう。



祭を取り上げ「引き継ごう山岳祭」と題するパンフレットを作り広報活動していることなどもあつてか、遠方よりの参列者もあつた。式典終了後には記念撮影をした後、めいめいが方位盤に深田久弥のレリーフのある富士写ヶ岳山頂を指した。



この一冊

『岳人』の最新8月号、これも富士写ヶ岳の話題である。

「あの人も歩いた山」シリーズ⑤で深田久弥が取り上げられている。まず、「日本百名山」の紹介から始まり、富士写ヶ岳登山をきっかけに始まった、深田久弥の登山人生を紹介し、「富士写ヶ岳」が紹介されている。

文中にもあるように、編集者は久弥が登った夏の富士写ヶ岳を体験すべく、暑い時期を選んで登り、身をもってその暑さを体験している。下山後、深田久弥山の文化館を訪ねていただき、文中で深田久弥山の文化館も紹介されている。

